



平成 21 年 8 月 7 日

各 位

会 社 名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 田島 秀二  
 (コード番号：7707 大証ヘラクレス)  
 問合せ先 取締役業務本部長 秋本 淳  
 (TEL 047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 2 月 6 日に公表した業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 通期連結業績予想の修正 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

|                           | 売上高   | 営業利益  | 経常利益   | 当期純利益   | 1 株当たり<br>当期純利益 |
|---------------------------|-------|-------|--------|---------|-----------------|
| 前回発表予想 (A)                | 3,500 | 160   | 80     | 5       | 116 円 71 銭      |
| 今回修正予想 (B)                | 3,802 | 258   | 217    | 73      | 1,704 円 01 銭    |
| 増 減 額 (B-A)               | 302   | 98    | 137    | 68      | —               |
| 増 減 率                     | 8.6%  | 61.3% | 171.3% | 1360.0% | —               |
| (参考) 前期実績<br>平成 20 年 6 月期 | 3,397 | △141  | △248   | △400    | △9,350 円 09 銭   |

#### 2. 通期個別業績予想の修正 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

|                           | 売上高   | 営業利益   | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり<br>当期純利益 |
|---------------------------|-------|--------|------|-------|-----------------|
| 前回発表予想 (A)                | 2,850 | 90     | △10  | △60   | △1,400 円 56 銭   |
| 今回修正予想 (B)                | 3,103 | 183    | 104  | 55    | 1,283 円 85 銭    |
| 増 減 額 (B-A)               | 253   | 93     | 114  | 115   | —               |
| 増 減 率                     | 8.9%  | 103.3% | —    | —     | —               |
| (参考) 前期実績<br>平成 20 年 6 月期 | 2,627 | △155   | △255 | △617  | △14,409 円 51 銭  |

### 3. 連結業績予想の修正理由

当社グループでは、急激な円高の進行が、欧州への輸出割合の高い当社事業へ悪影響を及ぼす懸念を主たる理由として、平成 21 年 2 月 6 日に通期業績予想の修正を発表いたしました。この時の想定レートは、1 ドル=90 円、1 ユーロ=115 円でしたが、その後、為替は円高が緩和され推移しました。

こうした為替の状況に加え、当会計年度第 3、第 4 四半期において、主力 OEM 先であるロシュグループ及びキアゲングループ向け DNA 自動抽出装置のバージョンアップ製品販売が好調に推移したことから、予想を上回る売上高 3,802 百万円（前回発表予想より 302 百万円増）の見通しとなりました。

販売費及び一般管理費についても、前連結会計年度より手掛けてきた様々なコスト削減策が功を奏し、大きく削減する見通しとなりました。その結果、営業利益は 258 百万円（前回発表予想より 98 百万円増）の見通しとなりました。

一方、営業外損失となる為替差損は 44 百万円と、当会計年度第 2 四半期末の 75 百万円より縮小する見込みとなり、経常利益は 217 百万円（前回発表予想より 137 百万円増）の見通しとなりました。

また、これまで、当社グループは、子会社からの配当を受け取らない方針で、欧州子会社の内部留保は、事業発展のための設備投資に利用してまいりましたが、当連結会計年度より配当金を受け取る方針といたしました。このことに伴い、同子会社の留保利益に対応して、将来の配当により親会社において追加納付が発生すると見込まれる税金額につき、繰延税金負債を計上したこと等から、法人税等調整額として 67 百万円を費用計上することとなりました。その他税金等を差し引き、当期純利益は 73 百万円（前回発表予想より 68 百万円増）の見通しに、上方修正することとなりました。

### 4. 個別業績予想の修正理由

連結業績予想の修正と同様の理由により、売上高の通期予想は 3,103 百万円（前回発表予想より 253 百万円増）、営業利益は 183 百万円（前回発表予想より 93 百万円増）の見通しとなりました。また、経常利益は 104 百万円（前回発表予想より 114 百万円増）、当期純利益は 55 百万円（前回発表予想より 115 百万円増）の見通しとなりました。

以 上